

三谷 博先生
業績一覽
(2014年11月現在)

I. 著書

A. 単著

- ① 『明治維新とナショナリズム——幕末の外交と政治変動』山川出版社, 1997年(386頁)
- ② 『ペリー来航』吉川弘文館, 2003年(299頁)
- ③ 『明治維新を考える』有志社, 2006年(248頁)
- ④ “Escape from Impasse,” International House of Japan, 2006 (David Noble 訳. 322頁 . ②の英語版)
- ⑤ “Escape from Impasse” I-House Press, 2008 (2nded. 388頁)
- ⑥ 『さかのぼり日本史(5) 幕末危機が生んだ挙国一致』NHK出版, 2011年(129頁)
- ⑦ 『明治維新を考える』岩波書店, 2012年(320頁. ③の改訂版)
- ⑧ 『黒船来航——対長期的危機的予測模索与美国使者的到来』社会科学文献社(北京), 2013年(張憲生ほか訳. ②の中国語版, 222頁)
- ⑨ 『愛国・革命・民主』筑摩書房, 2013年(349頁)

B. 共著

- ① 『19世紀日本の歴史』放送大学教育振興会, 2000年(山口輝臣と共著. 1-7, 9章担当. 全195頁)

C. 編著

- ① 『近代日本の政治構造』吉川弘文館, 1993年(有馬学と共編. 392頁)
- ② 『東アジアの公論形成』東京大学出版会, 2004年(283頁)
- ③ 『歴史教科書問題(リーディングズ日本の教育と社会⑥)』日本図書センター, 2006年(384頁)
- ④ “Acta Asiatica 93: The Transformation of Japanese International Relations: From Early Modern to Modern Times,” The Tōhō Gakkai, 2007(109頁)
- ⑤ 『高校生のための東大授業ライブ』東京大学出版会, 2007年(249頁)

D. 共編著

- ① 『明治維新の革新と連続』山川出版社, 1992年(近代日本研究会. 斎藤修と共編. 331頁)
- ② 『地域史の可能性』山川出版社, 1997年(近代日本研究会. 阿部武司と共編. 321頁)
- ③ 『日本立憲政治の形成と変質』吉川弘文館, 2009年(鳥海靖・西川誠・矢野伸幸と共編. 390頁)

- ④ 『国境を越える歴史認識——日中対話の試み』東京大学出版会，2006年（劉傑・楊大慶と共編，381頁）
- ⑤ 『超越国境的歴史認識——来自日本学者及海外中国学者的视角』社会科学文献社（北京），2006年（⑤の中国語版，383頁）
- ⑥ 『東アジア歴史対話——国境と世代を越えて』東京大学出版会，2007年（金泰昌と共編，364頁）
- ⑦ 『史料学入門』岩波書店，2007年（東京大学教養学部歴史学協会，271頁）
- ⑧ 『大人のための近現代史 19世紀編』東京大学出版会，2009年（並木頼寿・月脚達彦と共編，318頁）
- ⑨ 『東アジア近代史 第13号《特集 東アジアの国際秩序と条約体制》』ゆまに書房，2010年（212頁）
- ⑩ 『講座明治維新 1 世界史のなかの明治維新』有志社，2010年（木村直也と共編，264頁）
- ⑪ 『琉球から見た世界史』山川出版社，2011年（村井章介と共編，161頁）
- ⑫ 『다시보는동아시아근대사』까치，2011年（⑧の韓国語版，407頁）
- ⑬ “Toward a History beyond Borders,” Harvard University Asia Center, 2012年（④の英語版，472頁）

E. 分担執筆

- ① 社会移動と教育，中村隆英・伊藤隆編『近代日本研究入門』東京大学出版会，1977年（193-219頁）
- ② 官吏任用制と法科大学，『東京大学百年史 通史一』1984年，第一編第三章第三節（1053-1094頁）
- ③ 卒業生数の推移，卒業生の進路選択，卒業生と優等生，『東京大学百年史 通史二』1985年，第四編第三章第三節第二-三項（171-200頁）
- ④ 統計からみた学生生活，卒業生と就職難，『東京大学百年史 通史二』1985年，第五編第三章第二節第二-三項（506-553頁）
- ⑤ 卒業生と就職，『東京大学百年史 通史二』1985年，第六編第三章第四節第三項（912-940頁）
- ⑥ 対露緊張の高潮と弛緩，井上光貞・永原慶二・児玉幸多・大久保利謙編『日本歴史大系 3 近世』山川出版社，1988年（903-915頁）
- ⑦ 天保～嘉永期の対外問題，井上光貞・永原慶二・児玉幸多・大久保利謙編『日本歴史大系 3 近世』山川出版社，1988年（1127-1151頁）
- ⑧ 明治維新と「家」身分制，福地惇・佐々木隆編『明治日本の政治家群像』1993年（28-60頁）
- ⑨ 安定と激変—複雑系をヒントに変化を考える，史学会編『歴史学の最前線』東京大学出版会，2004年（79-98頁）
- ⑩ 近代日本公共領域の形成と発展，許紀霖主編『公共空間中的知識分子』江蘇人民出版社，2007年（235-244頁）

- ⑪ In search of historical dialogue and comparative studies: A reinterpretation of CHANGING JAPANESE ATTITUDES, M. Collcutt, M. Kato and R. P. Toby, eds., Japan and its worlds: Marius Jansen and the internationalization of Japanese studies, I-House Press, 2007 (71-99 頁)
- ⑫ The history textbook issue in Japan and East Asia, Tsuyoshi Hasegawa and Kazuhiko Togo, eds., East Asia's haunted present, Praeger security international, 2008 (83-93 頁)
- ⑬ 即位儀礼の再編成——孝明・明治・大正三帝の比較, 黄自進編『日本の伝統と現代』中央研究院(台北), 2011年(45-74 頁)
- ⑭ Writing history textbooks in Japan, Gi-Wook Shin and Daniel C. Snieder, eds., History Textbooks and the Wars in Asia: Divided Memories, 2011 (193-207 頁)
- ⑮ 日本史から見たフランス革命, 山崎耕一・松浦義弘編『フランス革命史の現在』山川出版社, 2013年(199-230 頁)

II. その他の学術論文

- ① 明治後半期における東京帝国大学と社会移動(上), 東京大学『東京大学史紀要(1)』1978年(17-37 頁)
- ② 『新論』覚え書き《「忠孝」の多重平行四辺形》を中心に, 東京大学教養学部『歴史と文化』99, 1994年(1-26 頁)
- ③ 「革命」の「理解」は可能か, 中国社会文化学会『中国——社会と文化』15, 2000年(3-35 頁)
- ④ 「夏虫の氷」と「杞憂」——19世紀前半日本の対外問題, 東京大学大学院総合文化研究科アメリカ太平洋研究センター『アメリカ太平洋研究』5, 2005年(19-28 頁)

III. 学会組織・発表

記録不備につき省略